

「図書室」と「小さな図書室」



昨年度、教員2名と愛知県の緒川小学校へ視察に行った際に教室を含め学習環境の重要性を感じて帰ってきました。

視察に行った教員が、まずは図書室環境を変えていこうと考えてくれ、担任していた子どもたちの意見を取り入れながら図書室に左のような学習スペースを作ってくれ、グループに分かれて学習する際などに活用しています。

3学期末には、低学年の子がもっと本に親しめるように本が身近にある環境をつくろうと、図書室にあった低学年向きの本を2階の1年生教室横の多目的スペースに移動してくれました。図書委員会だけでは到底無理な作業なので当時の4・5年生に、2年生も加わって本を選ぶところから





始まりました。

4月から朝の時間に図書委員会の子が、多目的スペースを「小さな図書室」と名付け本の貸し出しを行っています。また、低学年の子は朝や業間の時間などに自由に本を手に行っている風景をたくさん見ることがあり、教育環境の重要性を感じたところです。



今回、自分たちの学校にある財産（図書室）をもっと有効に活かす方法はないかと考えてくれたり、「子どもたちに本を手にとってほしい、興味を持ってほしい」という願いを叶える方法を子どもたちに尋ねながら、

職員で知恵を出し合い考えてくれたりしたことが大変嬉しかったです。



また、先日、市教委から依頼を受けた2名の図書サポーターさんが来校され図書館環境の整備を行って頂きました。図書サポーターさんは定期的に各学校を訪問し、子どもたちが本に親しめるよう環境づくりをしていただいて

います。

今回、図書環境を 2 か所に分けたことを説明し、図書室に加え、小さな図書室にもかわいい作品を掲示いただきました。

立命館アジア太平洋大学学長の出口治明さんは人が賢くなる方法は「人に出会うこと」「本を読むこと」「旅に出かけること」に尽きると話されています。出口さんは著書で、「子どものころはよく図書室に行っていた。そこで、本が好きになり、図書室のほとんどの本を読んだ。」と話されていました。また、昨年、地域の方に図書室を案内したときに、「私が小学校の頃は、竹田小の図書室には、過去の新聞がたくさんおいてあり、それを読むのが大好きだった」と楽しそうに話されていました。

今後も子どもたちとともにいろんなアイデアを出し合いながら、子どもたちが本に触れる環境を整えていきたいと思っています。